

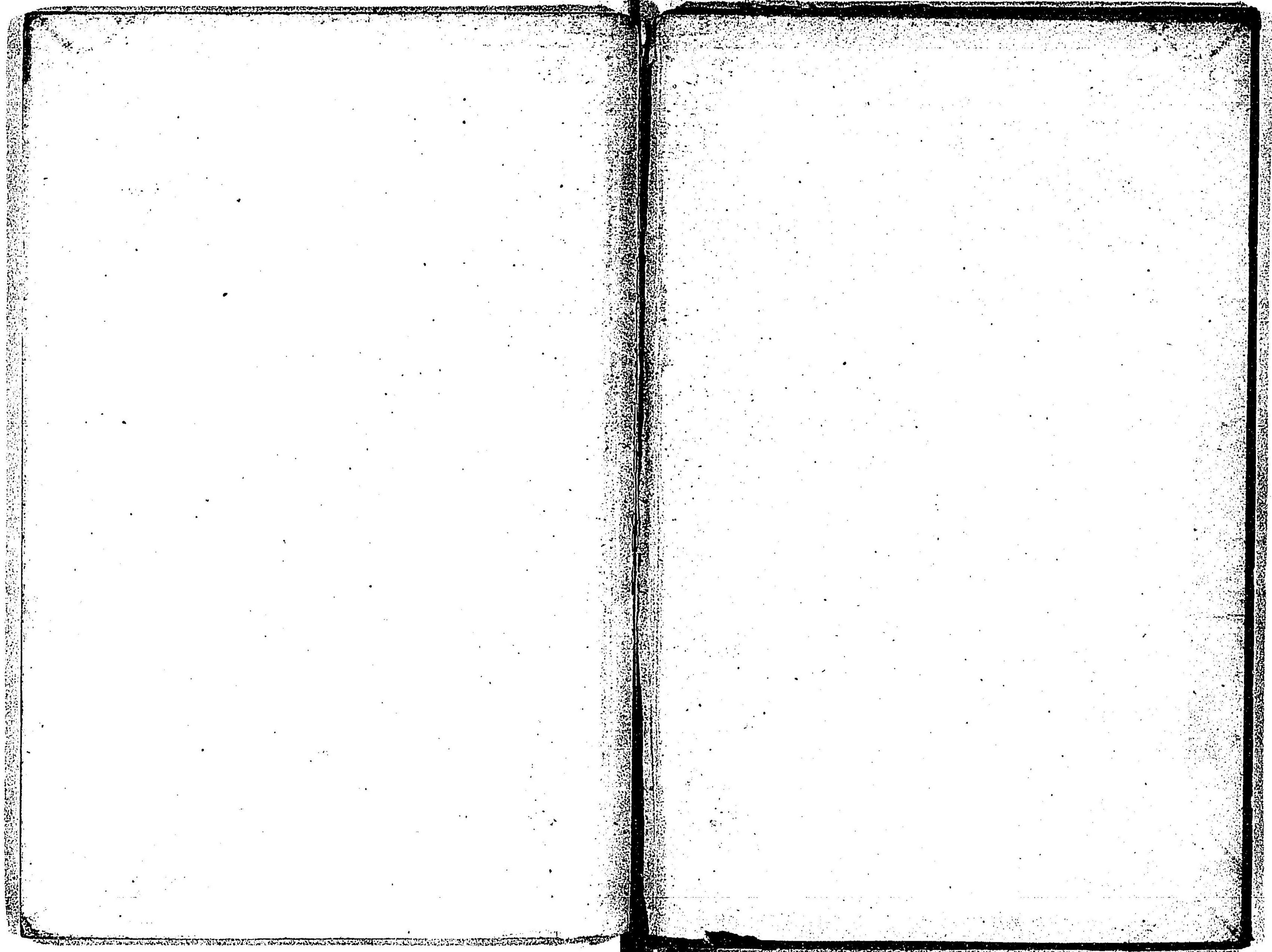
82

5711

因 藩

山 泉 記



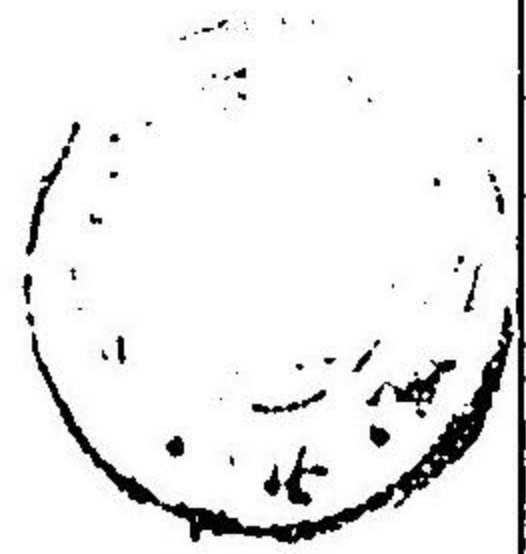


因幡岩井温泉案内記



◎ 歴史

此泉の涌出づる所を古石井郷と稱し宇治長者の遺蹤あり初め長者居を占めんと此地に來る適々神女に遇ふ涌泉の所を指示し以て終焉の地とささしむ且云ふ余は醫王なり汝を候つ久しと言訖て遂に見へず長者感謝し自ら醫王の像を彫り佛閣を造營して之を奉安し湯榮山如來寺と稱し以て之れに報ゆと云ふ抑長者は山城宇治郷の人左大臣藤原冬嗣の裔冬忠の第二子冬久にして其母れ己を愛し其兄を廢するの意あるを知り伴り狂して家を出で此地に匿れ資財を散し貧困を恤む人皆其德に懷く清和天皇之を賞して地及び木材を賜り因て浴場を構造し浴客麁集するに至れり終に壽を以て終り其子孫連綿たりしか元享中平高時の亂に當り其祀を絶ち浴場等亦廢す後三百年敏達天皇の後裔橘光仲



因伯の太守とあり其廢絶を歎して之れを再興せり由來公卿貴紳の士此地に遊ぶ者多く留題の和歌亦尠からず(發見年月日不詳)

安倍惟親撰因幡誌、内務省衛生局藏版、日本鑛泉誌其他當温泉に関する緣起由來等參考

目 録

- 一 鑛泉々質及び名稱、定量分拆表、醫治効用
- 一 土人の傳ふる所の効能
- 一 醫師の名稱及び宿所
- 一 療養に尤も適する時期
- 一 元泉温度及び普通入浴温度
- 一 治療上に用ゆる材料
- 一 各地との交通便利里程道路及び戸數人口
- 一 旅館の結構及び戸數名稱
- 一 物價及び滞在費
- 一 一年間平均の客數
- 一 遊客の來る地方
- 一 飲料水飲食物供給の模様

- 一 勝景風光古跡附近の山水及び神社佛閣
- 一 遊客の娛樂
- 一 諸官衙其他
- 一 産物
- 一 風俗習慣
- 一 傳染病等の有無
- 一 浴場の管理
- 一 詩歌并に湯被り歌
- 一 各地里程表

因幡岩井温泉案内記

◎ 鑛泉々質及び名稱

大坂衛生試験所分拆の成蹟により當鑛泉を弱鹽類泉と認められ其名稱を岩井鑛泉と云ふ村の南方に當り梅ヶ木谷と稱する細流を銀水と云ひ(古老の口碑又湯槽に散在せる腰掛鉦石等悉く白銀色を帶ぶ故に俗之を銀湯と稱し又一に鷲湯と云ふ蓋し泉源發見の一説に基くものあらん乎尙は舊來特別の名稱を有する湯槽の主たるものを擧ぐれば左の如し

- 一 殿湯 二 槽
- 一 中の湯 女 男 女 男 女 男
- 一 下の湯 女 男 女 男 女 男
- 一 小女郎湯 女 湯

外 新平民湯の設あり

◎ 検査報告

第百拾八號

一 鑛泉 鳥取縣因幡國岩井郡岩井宿字 島根より湧出す

一 種

◎定 量 分 拆

本泉は無色清透にして臭なく鹹味を有す其反應は弱亞兒加里性を徴し比重は攝氏二十一度の温に於て一、〇〇一五に居り毎「リートル」中に一、九七二八瓦蘭謨の固形物を含有す即ち其成分及び分量左の如し

硫酸那篤儻謨	一、〇九五四
硫酸加儻謨	〇、〇三七八
硫酸加兒叟謨	〇、三七七四
格魯兒化加兒叟謨	〇、二八二五
珪酸	〇、二六七四
礫酸	痕 跡
鎮	全

鑛 土

麻屈涅與謨

有機物

全 全 全

右の成蹟に依れば本泉は弱鹽類泉なり

◎醫 治 効 用

本泉は概ね左の疾病種類に効あるものとす

一 各種慢性癩麻質私

(注) いろいろのながびくローマチス症

一 假性關節強直

(注) かりに、ふしぶし、のびてかがまぬ症

一 癩麻質私性筋肉羸縮症

(注) もとろーまちすにて、すじのひきつけ、じゆうあらぬ症

一 慢性胃加答兒

(注) あがびいたる留飲にて、くうものもの、のじものも、みな胃の中に、つかへてねつをもち次第に、かどろへるをあをす効あり

一慢性痛風

(注) あがびく、ふしぶし、はれいたむ症

一諸 瘧 衝

(注) もろもろ、ところをさだめ、ねつをもち、はれるものゝるい

一創傷後の滲出物

(注) さりきつのおとより、あましるいでて、ただれる症

一組織肥大例へば

○慢性肋膜炎滲出物を吸収し其肥厚を解散す

(注) あがびいたる、あばらのうちの、かわに、ねつをもち、はれて、しびれる毒

○子宮周囲蜂窠織炎

のしるを、すいどり、はれてふどりたるを、とかす効あり

(注) おぶくろの、そとの、まわりの、にくに、ねつをもち、はれ、しみでものを

(すいどりちらし)又ははれふどりたるをときちらす効あり

○骨盤内膜炎

(注) しりはねの、うちのかわに、ねつをもち、はれ、しみでものを(ちらしすいどり)又は、はれふどりたるをとかす効あり

一神經機亢盛の諸症

(注) 氣のこり、又は、ぎやくじよう、かんしやく、さのちがわんとする症に効あり

一各種神經の麻痺

(注) さまざま、からだのうちの、けいとどめ、しびれる症

一經久の腦脊髄中風

(注) ながびきたる、つひり、せぼねの、うちに、やまいありて、片手片足しびれ中風の症に効あり

一 知覺過敏

(注) のぼせて、すこしのことも氣にかゝり、よるわねむられず、ひささわきする症に効あり

一 依卜昆堉兒

(注) 男のやまいにして、さぶんの、蕪して、たのしまず、ものわすれしたり、文ははたらきに飽き、たいぎになり、人にあいともあく、どうきうち、よるもねむられぬ症

一 歌私的里

(注) 婦人のやまいにして、あにごとにも、さにかゝり、又はどうきうち、ものにあき、かあしくなり、はたらきも、あんぎにあり、さぶんおもしろからず、ものわすれする症

一 神經衰弱

(注) あいしんよわりの症

但し新發の腦中風、脊髓勞、腦腫瘍等より來る漸進麻痺には禁すへし

(注) あられたあ、づみそのうちの、ちのすじやふれる症、せすじのつかれたる症、づみそのうちに、ものゝ出たる症より、おこりて、しびれるにはあし

一 婦人生殖器の慢性諸病

(注) こしよりしたの、ながびいたる、すべてのやまい

一 貧血諸病及び萎黄病

(注) からだの血の、ふそくして、どうきのたかぶりて、あるくにもあんぎ、又は血のふそくして、色さいわをくあり、どうきたかぶり、はたらきのできぬ症

一 腺病及び重病後の恢復期

(注) るいれき、又はおもさやまいの、あをりがけのときに効あり
一 慢性皮膚諸病頑固の潰瘍、遲鈍性創傷、癩瘡及び骨瘍

(注)

あがびく、ひにくのもろくのやまい、かたまりついたりくさるもの、あをりのねをさきりさず、しもつのくちいへず、うみ、しる、でるもの、又ははねのくさるもの

一慢性腎臟病、腎盂加答兒、膀胱加答兒其他の累久の梅毒水銀劑療法後等の患者には其時期を撰ひ之を用ひて効あり

(注)

あがびく、じんのやまいにして小便に、しろきものを、たくさんいだすやまい「じんのぞをの、うちのかねに、ねつをもち、はれて小便のであしく「しよをべんぶくろの、うちのかね、ねつをもち、小便のでかねる症、其外久しく、なをらねばいどく、すいぎんのくすりど、もちいて、りよじのち等の病人には、そのとさをねらみて、このゆを、もちゐて、こをあり

大坂衛生試験所

所長内務五等技師櫻井小平太代理

内務五等技師 齊藤寛猛

検査主任

内務技手見習 高山基重

◎土人の傳ふる所の効能

土人の傳ふる所の効能は重に「りゆーまちす」疝氣癰氣胃病神經病貧血症子宮病等にして分拆表に指示せる所と彷彿たり此種の病症には大凡三週間乃至五週間を以て効能尤も顯著ありとす

◎浴場に関係ある病院及醫師の名稱並に住所

内外科醫貳名 井崎巖 あり住所は旅館に接近せり又常々鳥取縣立病院の便あり 天野七五三三

◎土人の信ずる入浴及び療養に最も適する時期

入浴は一日三回乃至四回とし食后壹時間を経過したる後を宜しとす室内は常に空氣の流通に注意し濕熱を吹除せまじ療養は三月より十月迄を好時期とす海濱と去る僅に壹里半の近き所あれば四時常に新鮮なる生魚の供給に富み旅

館の構造は多く四面を望み或は山水の韻致を一瞬に眺め或は碧空に婆娑たる皎月を望み浴客として四季自然の清氣を呼吸し覺ゆる病苦を忘れて浩然の氣を養はしむるに適す此地一種の湯被り歌あり(別冊)洋々として耳に充ち自ら平素の塵襟を一掃するの感あるは各地鑛泉場絶へて其類例を見ざる所殊に暑中惡疫流行の際此地ありて汗濕を洗拭し身体を壯快あらしむるは遙に他の衛生法の及ばざる所也

◎ 元泉温度及び普通入浴温度

鑛泉場は其湧出地を以て湯槽とし各々區域せりと雖泉質一定にして元泉湧出の度は華氏百卅度あり各湯槽に充溢せる平均の度は百拾五度普通入浴には身体適合の温度あるか故別に冷水を混入せず

◎ 治療上に用ゆる材料

鑛泉と飲用する事は古來よりの例にして實際上明かに其效能を認むる所あり殊に便秘を通し毒物を排泄するに特功あり患者の強弱に依り異れりと雖粗は

壹回に壹合位壹日三回とす又咽喉加答兒口内炎齒齦炎等口内の疾患には外用として度々含嗽するを宜しとす之れ當鑛泉中格魯兒化加兒叟謨等の成分を含有するを以てあり
土地に産して専ら滋養に供するものは牛肉、牛乳、雞肉、雞卵、氷、蜂蜜(滋養鑛鉀煎)らひね等を以て其主なるものとす

◎ 各地と交通便利里程道路及び人口戸數

當温泉場は山陰國道線に沿ふを以て東通西達其便に叶ひ中央に宏壯ある共同浴場あり浴場に沿ふて國道直線に村の中心を貫通し戸數貳百戸人口壹千四五百西南に愛宕山あり直立三十丈古樹盛茂し林麓に循ひて一村を敷衍し村の盡る所には岩井川(蒲生川の下流)の潺湲たる激湍ありて翠黛たる宇治連山と相對し山水明媚幽邃閑雅加ふるに四面平坦あして直徑拾余町東西の距離凡と壹里半全國各地鑛泉場は多々ありと雖も或は峯巒迂迴の所に或は不毛の螺底に籠居するか如き所とは遙かに異れり此地鳥取市を距ること五里半但し目下着手の

文字坂道路改修工事竣功せば優に一里余と短縮するを得へし又但馬國美方郡
 湯村(温泉地)を距ること五里余西方は一帯の沿海にして敷村常に漁撈を事とす
 就中浦富及び大谷は海水浴場の設けあり何れも里余を隔て交通の便甚た宜し
 く加ふるに海岸の風光絶佳あるを以て浴余時々此地に慰むの人頗る多し若し
 夫れ浦富村より一葦の小舟に棹さし沿岸を繞らんか一瀉直ちに田後港に至り
 燈臺岬頭を過ぎ黒島を斜に見て萊種島に至る此島東より西に抜けて大なる洞
 穴あり船舟を通すへく全島萊種を生して黄彩爛熳尤も奇觀と呈し沿岸の諸山
 及び海上に碁布せる無数の島嶼は峭壁斷てるか如く翠松其上を蓋ひて縹渺た
 る煙波と相映し宛然畫卷を觀るか如し(露霜のいつ種植て萊種島てふ吟あるは
 自然の景を稱せしもの乎)夫れより西網代港に接近して千貫松あり兩脚形の島
 上に枝幹屈曲舞ふが如き壹株の松樹を生じ頗る風致あり維新前鳥取藩主池田
 侯遊覽の節此小島をして能く吾か庭裏に致すものあらば此れに酬ゆるに銀千
 貫と以てせんと依而千貫松の稱を遺すと云ふ尙は關望すれば白帆點々波間に

出沒し鷗鴨相集りて汗漚に啄ひあり眞に北海唯一の絶勝景にして他に其の類
 例を見ざる處なり

鐵道は未だ全通せずと雖鳥取境間は己に幾部落成を告げ鳥取市停車場も本年
 四月より其起工に着手しつゝあり而して今や我が温泉場を通過すべき山陰縱
 貫線は實に北面樞要の線路にして夙に朝野の注目する所とあり最早數年を出
 すして布設せられんとす宿の股賑期して俟つべしあり

◎ 旅館の結構及び戸數名稱

旅館は悉く三階造り及び二階造りにして尤も宏大の結構なれば如何なる難沓
 の時と雖浴客を容るゝに差支なく何れも採光通風排水眺望等の衛生に留意し
 て設計建築したるものならざるはなし其重なるものは
 こまや節太郎(晃陽館)角屋二郎(旭嶺館)明石屋三郎(泰山館)花屋爲藏(瑞雲館)岩
 井屋重太郎(對翠館)木島與市(保明樓)兼料理店(備前屋年藏(觀月樓))川戸屋誠市
 (川翠館)等にして齊しく共同浴場(元泉)を縈繞して相列り室内電鈴を通し各館

常に内湯を設備し風雨の日若くは泊客の難症等にて歩行不自由の際殊に其便を得せしむ其他宿泊所休憩所數多あり尙料理店には山田虎藏(翠亭)山田婦與(風月樓)等あり

◎ 物價及び滞在費大略

物價は各地の景況に比すれば較低廉にして商家軒を並へ常に鳥取市往復の便ありて缺乏を來す事なし殊に魚介類の如きは著しく廉價にして其他の雜貨も概ね鳥取市と伯仲の間にあり滞在料は上等並等に區別し上等賄料壹日金貳拾錢並等は壹日金拾參錢其他米蒲團油炭等の諸雜費を合して上等四拾錢内外下等貳拾錢以上三拾錢以内とす尙ほ宿泊料は其都度泊客の需求に應じ數等れ差あり

◎ 壹ヶ年間平均の客數

大凡壹年間泊客數は合計拾萬人以上あり

◎ 遊客の種類及び來る地方

浴客の類別は種々ありと雖十中の七分は農家にして其他は實業者及び官吏等之に次ぎ各名勝漫遊の文人墨客等の來訪するものも又少あからず其地方は播磨美作三備廣島地方より淡路伯耆但馬丹後丹波及び京坂地方等尤も多し

◎ 飲料水供給之模様及飲食物

梅の木谷の銀水と云ふは其性質良好にして「アンモニヤ」及び有機質を多く含む含有し細流と雖清透にして四時滾々として涸れず村内を横流せり又愛宕山麓に鑿井の清淨なるものあり而して蒲生川流は鳥取縣立病院の試験上其結果を得しものにして交々此三泉を以て浴客之飲料に充つ食物に至りては別記産物中不絶鮮魚を供給するは勿論蔬菜果實の類は全國に有名なる鳥取市青物競賣所より日々に堪へず是れを運搬し何品と雖一点の差問なく浴客の嗜好に投して之れを食膳に供することを得べし

◎ 勝景風光古跡附近の山水神社佛閣

飲料は日本酒數種葡萄酒ビール、ラムネ、等總て日用品に缺くことなし

愛宕山上は平術に切開し常に浴客娯遊の場所と爲し秋葉三尺坊を安置す頂上より眺むれば岩井八景

- 愛宕靈燈 長峰翠月 蒲流争釣 宇臺黄波
- 養老螢狩 長安晚鐘 恩趾曉雪 島根納涼

一眸にあり而して愛宕山の南方より東に亘り一帯の深林にして附近の諸山細流各其趣きを異にせり

氏神を御湯神社と號し式内郷社たり大已貴神伊勢宮延喜式神名帳に載之を尊奉せり(祭日は四月九日)境内には老松古椎蔚蒼として四時群鳥の流轉止む時あし社殿の側に長さ貳尺三四寸横八寸許りの石面に雁股の鏝の迹あり則ち平家大將能登守教經の鏝を研きたる石ありと云へり

彌勒寺の廢石 彌勒寺の舊跡は現今の神社鎮座地にして此寺開基不明又山號も傳はらずと雖往昔は大伽藍ありしと當時の塔の礎として用ひたる大盤石華表の右側に在り長さ壹丈貳尺横八尺中央に直徑貳尺餘の礎の穴あり謠に是を

鬼の枕と云へり

醫王山東源寺には温泉守護將神を安置し清和天皇廿御宇藤原冬久の建立にかゝる其他瑞泉山定信寺(知恩院派)淨教山西法寺(眞宗)觀音寺(大野の城主山田安藝守家治の墓並に牌位)等あり尙ほ古跡は大野城趾、養老城趾、朝日ヶ尾、小屋ヶ平ル、琴引等の名勝只僅に其名を止むるのみ社地の山麓に長者屋敷あり今を去る一千有余年前藤原冬久卿(宇治長者と云ふ前項歴史參照)各地漫遊の際此温泉の効驗あると知りて此地に寓居し一層温泉を興起し藥師如來を勸請し子孫の永住を定むと云ふ以來星霜を經過し終に其統を斷ち土地一面荒廢に屬し現今一場の公園とあすど雖長者屋敷は口碑と共に歴々として今尙ほ其形跡を存す此邊一帶眼界浩濶にして靜寂たる別乾坤を成し浴余の逍遙には最も好適の境地たり(詳細は因幡誌參考)

淨教山西法寺は村の南面又當り愛宕山麓に添ふて寺院を構造し藥師寺と表裏相接し土地高濶にして各方面の清風重ねて此所に集り殊に背後より來る深林

の生氣は芳蕪を放つて青嵐を絶たず遙に長峰の翠月を望めば山川相映して光輝射るが如し庭裏は潺湲たる泉水を設け生魚常に遊躍し院の四集は種々の菓木草花と配植し四季に絶ゆる事なし盛夏浴客の參集踵を絶たず往々奕棊の催あり吟詠高歩意の如く涼風凛々襟袖に馥郁として日の傾くを知らず真に佳境の感深きは尤も好適の運動地と云ふべし

温泉地を去る貳拾五町東方に當て龍頭と稱する所あり此地一種の奇石を生ず龍頭石又は木の葉石と云ふ水成岩の一種にして性質堅半黒色あり其石を兩斷すれば一葉の木の葉形表裏に炳然として印象を留るを認むべく又以て地質學上の好資料たるを失はざるべし

宇治村に靈庵長安寺あり藪鬱たる林麓に位し土地高燥清雅にして一畝の下岩井の全景を一時に集むるを得地の一隅には清水噴沸として湧出するあり若し夫れ夏日祝融威を逞ふするに際し暑を此地に避んか陣風扇を擺つて清爽言ふべからず此庵奉る所の靈像は大古行基菩薩の彫琢に係り靈驗殊に著きを以て

參拜する者亦少からず夫れより西方に當り本光寺と云ふ禪刹あり岩井を去る事八丁國道の右側に位す背後山を負ひ堂宇宏壯にして人舍に隔離し閑雅幽邃殊に庭前には有名なる築山蓮池の勝景あり浴客の朝夕杖を此境に曳くもの又少あからず

岩井の北方に金峰山あり金峰神社を奉ず里程壹里頂上より遙に杳渺たる北海を望むを得古樹蘊蔚の所清涼掬すべき噴水あり境内靜肅にして靈驗頗る威稜故を以て平日參詣祈願の徒及び風景を愛し閑雅を樂むの士踵を絶たず特に祭日(舊曆三月十五日八月十八日)には全國の賽人絡繹として其賑しき事譬ふべからず

岩井より東南行程三里雨瀧と云ふ國中第一の大瀑布あり高さ拾余丈幅拾尺峻崖絶壁の間に飛瀉して或は鷲毛縹紛たるが加く或は灑々珠屑を飛散するが如く飛沫霰毳として常に山腹を掩ふ而して此地塵寰を隔て、頗る幽凄盛夏尚ほ人をして戰慄の感わらしむ又布引の瀧筥瀧等何れも壯觀にして附近にあり常

に腕車を通するの便あり

◎ 遊客の娯樂

室内射的場揚弓半弓公園地寫真場あり春秋浴客輻輳の時は圍碁將棊茶插花等各種の競技會の催あり

◎ 諸官衙其他

郵便電信局警察署村役場鳥取區裁判所岩井出張所岩井融通合資會社生糸製絲場岩井高等小學校岩井尋常小學校酒造家二戸轆轤細工書肆兼貸本屋菓子製造所製劑所(小谷長壽堂と云ひ滋養鐵飴煎を調製す補血強壯劑として沝氣癩氣下り腹等に用ゆる良品あり)等あり

◎ 産物

米麥は更あり海産物野菜菓物等其類多く一々列擧するに遑おしと雖海産物にして有名あるは松葉蟹、鱈、鮑、牡蠣、鯛、鰻、飯、烏賊、鯖、鰯、飛魚、海苔、若布、白浪(鰯にて製したるもの)萬龜の味噌(曲物詰)滋養鐵飴煎(鐵詰)等にして就中魚介の美味

なるとは南海波靜なる地方にあつて絶へて其比を見ざる所あり殊に松葉蟹、眞鱈の如きは北海の珍魚にして他國に類なく因幡特産にして特に此沿海を以て最も有名ある漁獵地となす故に療客辭浴の節鹽干し若くは炙煮して土産贈物とあすに適す春秋漁獵の期は壹日數回生魚を擔ひて馳せ來るもの頗る頻繁あり又沿海白珊瑚の産ありて高尚優美ある洋杖、簾、齒揚技、函、寫真架、丹冊架等に製すべくこれ又當地の名産にして他地方人士の賞玩措かざる所れものあり

◎ 風俗習慣

村民は概して質朴鄭重を尙ひ苟且にも浮華狡獪の心なく浴客に對する言語動作等殊に淳良に勤めて揚漫の風おし習慣として世の開明に伴ひ頑迷ある舊癖を廢し迷信者等は至て稀にして別段記載するの箇條おしと雖金錢取引等に至りては今尙は舊曆を用ゆるもの多し殊に毎年盂蘭盆會には近村農家の休業期おれば毎夕黄昏の頃より陸嶺鐵泉に四集し終日源晷の汗を脱するの餘各村に少年子女相携へて豐年踊りをあし跳躍飛踏賑々として觀客を抱腹せしむも

又一興と云ふべきあり其他鎮守祭禮の行列の如き愛宕縁日の如きも地方稀に見る所の壯觀あり

◎傳染病風土病職業病の有無

本村は古來惡疫に罹りしものなく又風土病職業病等に侵されしものなく傳染病に付て其一例を擧ぐれば今を去る拾八年前(明治十七年)行程貳里の海岸に田後村と云ふ漁村あり一種の「これら」病を搭載し來り一村擧て感染し死亡無算且つ全村に蔓延し竟に隣村一時は行路を遮斷せらるゝに至れり而して當時は豫防清潔法等の發達頗る幼稚にして人民も隨て患者を隱匿して適當なる治療を加へず此の如くにして病勢漸々猖獗を極め急に撲滅の色を呈せず加ふるに警官醫師當事者等の日々陸續此地に來りて入浴するもの踵を絶たず爲めに其病毒を當地に漏さんことと恐れしも終に其兆候を示さず其他由來各種の惡疫此地に浸入せざるは自然の清潔法其宜きを得るに依るものにして是れ一に生命を依頼するに尤も適當なる療養地たる所以あり(岩井警察署惡疫統計表に詳か

なり)

◎浴場管理方法

温泉浴場は村内の共有にして(内湯は之を除く)毎年區長を推撰し是れが萬端乃總務を主宰監督せしめ別に關係者より貳參名を擧げて細務と擔當せしむ其他常に湯番を設けて浴場の周圍を掃除せしむ

詩歌

竹谷老葦蘭陵草

因州石井温泉詩并序

余多病、所々探靈液、嘗讀一本堂之藥撰、而浴俎馬城崎之湯、湯甚熱、浴者加水而后試之、余不信焉、以其不信、疾亦不愈、有馬函根或惡、黃氣或厭、鹽味、今茲安永乙未之夏、浴因州石井温泉、泉

最清潔、温而不熱、百疾咸應焉、湯坊有温泉記三本、其一卷者、城州八幡前神應古、谿禪師之撰、而修辭郁々乎有山瀾川媚之狀、余依之賦詩六首以贈湯場主人、

石井何年闢浴池

湯壺一片碧瓊璃

人間百疾多茲治

亦笑無醫吾老衰

在昔城南兔路鄉

冠家貴族有眸光

義存曾捨北臺愛

萬里佯狂滕二郎

面上患瘡滕二郎

郎曾常念瓊璃光

靈姬叱石温泉出

神賜百年日月長

貞觀天子愍蒼生

雨露恩深湯室成

實而來兮虛而去

萬民受賜賀昇平

元享之亂競中原

百萬旌旗如雲屯

鏃馬戎衣剛奪弱

是時長者斷滕孫

白髮將軍興海東

昇平宛若草靡風

靈湯重出山陰石

石井靈烟萬戶中

乾向山 觀讓拜題

醫王救世者

住於大神通

為悅衆生故

和光岩井中

※※※※※※※※※※

島根の御湯をとめる

藤原顯仲朝臣

夜とともにあたにたく火はなけれとも

しま根の御湯はさむるともなし

日野前大納言 資 矩 卿

世々を経てあま根の御湯は今もなを

さむる時なくわきかへるらし

因幡國巨濃郡に温泉ありもとえ島根の御湯

といふ今は岩井の御湯とあや所乃應名によ

りて歌よめとあつらへられて

柴山前權中納言 持 豊 卿

いかなきはたく火の影も見ぬさるに

しまね乃御湯はわきて伊都ら舞

柴山宮内大輔 國 豊 卿

むむしよりさむるともなきこの國の

島根の御湯や神の守れる

富小路正三位 貞 直 卿

しるしあればわきあつること行あつり

島根のみゆつとふもろ人

荒 尾 禮 就

いつの世のいつとき初て盡きぬ世の

島根の御湯のむむしとはくや

洋々舎 霞 洋 居士

温泉の恩も思ひ出されつ月と梅

神の守る御湯や岩井のそろくが

あらんかぎりのたからなりける

文化三丙寅諸大家のよめる

神風や世々にいこ井の御湯の秋	栗本	玉	屑
古寺や露もちかいの薬水	全	全	
春秋の岩井は温泉の花盛	京	月	居
花ははる月は月く霄薬師	ハリマ	雨	人
御湯の氣やあした夕の霧深み	ハリマ	桂	舟
御湯清しいつこの菊の流れなる	若櫻	鷺	少
恵ありや瑠璃の庭踏花見堂	但馬	桃	如
涼しさも御湯の恵を吾も人も	遊行柳	珠	阿

◎入浴に付て注意

- 一 浴場に行く人は男女に限らず必ず浴と着替て行くべし
- 一 始めて入浴を爲さんとする人は男女の別無く直ちに髪を洗ふべし
- 一 總て頭髮には油氣、垢の類のあるものあれば其髪を洗ふに玉子、蕪糊、温飴粉、髪洗い土、石鹼等を用ふべし
- 一 入浴の一日三回位を適當と雖病氣の模様依て疲勞せし人は初めの間は一日に一度位にして追々回数を増すべし初めより敵打の様に身心の勞するも考へず壹日に八回より十回も入浴し三週間程に入越す人あり是は却て療養とはならずして其身の害を求むるものあれば充分注意あるべし
- 一 入浴時間は其人々に依て異りと雖先つ拾分間より貳拾分間位とす然して後ち又壹度這入り同じく拾分位にして客室に歸るべし余り一概に長湯して一時眩暈を來し卒倒する人あり折角の治療も大なる害とあるのみならず近傍の人々の扼介にも成るべければ能々心得らるべし

一總て入浴の時には土地の慣例として湯被歌あり是れを唱へ柄杓を以て腦天より温泉を被り其歌の切目く上る時は丁度時間を計ると同様あり尤も梅毒瘰癧の頭上より被るに不必用の泉類とは其質を異にせるものあれば所の例に習ふがよろし

一此土地の温泉に限らず何れの國の温泉と雖外部より身体と温むる故逆上し易く腦充血を起し又は眼疾を起す事あり温泉を被りて上りたる後は必ず頭部に涼氣を覺ゆ逆氣を發散する事疑ひなし

一浴場より歸る時は何回にても充分汗を拭き取り而して后ち衣類を纏ふべし
 一浴場より歸りたる時直ちに蒲團の中に這入り四方の襖を占め切り汗を爲すが如きは却て身体に勞れを増し衛生を害するのみにして何等の効能もなく室内は病勢の氣焔に蒸塞せられ常に陰々として空氣の流通を妨ぐる故自室に歸る時は必ず奇麗に汗をとり室内を明け放ち可成新鮮の空氣を入れしめ其真中に座して泉水梁山等を眺むれば心能き事一入あり

一入浴せざる時間内は幾度にも所々を廻りく運動すれば第一胃の停滯を啓發し腦の知覺を増すものあれば務めて是を行ふべし

一入浴は三週間乃至五週間位と雖壹年限りにては全治覺束なければ二三年間重ねて入浴すべし是を迎湯と云ふ總て鐵泉療法は外部より温めて内部を治療するものなれば身体に當る事も隨て荒く入浴中は却て疲勞を覺へ歸宅の後現はるるもの多ければ只管辛抱を第一となす

一幕湯入浴料は壹回限りあれば金五厘壹週間なれば金七錢其他の湯槽は無料あり但し滯在中は温泉に係る諸雜費料として壹人壹週間毎に金參錢徴收す
 一右湯錢の徴收方は湯番其者より取集め温泉管理者に引渡をなす

附言

總て世の中は魚心あれば水心慈心あれば出來心ありと云ふは古人の金言一般の通例あれば浴客到着の時は所持の金員手元に殘し置て散歩入浴等自室へ不在の時不時の災難を生じたる時は双方に心配少なからず互に迷惑の至りあり

ば即時に取調べ多少に拘らず宿元へ預けらるれば古例に依て直様預証を差出し保管すべし

尙ほ大切の物品も前同様に扱ふ時は兩方の安心あり

湯被り歌

効能盡し

やれく始まるく始めの所は廣い世界だ

一廣い世界に數ある温泉は。日本ばかりで四百余りだ。伊豫の道後や攝津乃有馬や。伊豆乃熱海や上野伊香保や。相州箱根や。因幡乃岩井だ。抑も岩井の温泉の効能を荒ま一陳ます聞てもくんぬい三つは四つハ五つでも六つ七な八つは二階で目薬二二階で目薬やきゝめが少なむ。効能の多いのは岩井の温泉よ。

後じが痛んで骨身を引つけ。のびてろがまぬ自由なならなむ。りうまら病にも効能が第一……………滲出物だ

三滲出物では切りきづらとより。あば一る出で来てくだれる症やら。あばらに近所で熱をもちたり。はれてしびれる毒汁取り。ばきしてふとり一病をとかすは證文らくとり余つ程た一らだ……………子宮の病だ

四子宮病氣は婦人代持前。平たく申せば子袋いたみだ。肉のぐりよ熱氣を産出し。膨て肥りた症をばもらすよ。不二の山ほどきゝめが有ます……………御定宿だよ

五御定宿なる御客の事なら。あしらいよのできてなし氣にいらる。交際早いで氣分を廣がる。神經麻痺のすかりと抜けたる。

御茶も岩井の水の味だよ……無病息災

六無病息災延命長壽と。御湯代神社に祈願を掛たり。薬師如来に祈請をこめたり。雨籠御瀧や海岸見物。鶏卵吸うたり。葡萄酒飲たり。内から外から心を掛るが。衛生上には兎角の手術だ……

……七日の切目

七七日くの切り目を申せば。初めの七日はさほとになければ二週間目の始めの頃より。ちよこくさいく身体がつられ。食けも飲けも香味がとれど。しまいにやそろく身体も快腹。飲けも味つく食けを身につく。これからほんま乃効能が見えます。兎角入湯は辛抱が大事だ……病の効能だ。八病のきくめどもらいと云ふなら。神経病やら中風症にて片々

あひれて中氣乃症やら。身体血汁が足りない症やら。からだおしびれて手足の動かぬ。病の直つた例しはらづく……

國の土産だ
九國の土産も澤山あるうら。挽物細工や滋養の飴やら。近くの景色れうつした寫真や。海産物なぞ申に及ばず。辛抱の御影で直つた効能が。鑛泉治療の兎角代御土産だ……所の便りだ
十所の便りハ澤山あれと。便利の早い郵便電信。警察役場は衛生御注意。各國輸出の製絲場なんぞは。氣笛の聲ましてすてきになります……二度目乃おとよ

以下一に歸りて二度歌ふ 雜

一やれきたく始まる皆さん御苦勞た。病氣乃爲めとて遠い國

らら。馬車やら氣車やら馬やら車やら駕籠にも乗たり定めず皆
さん。に疲れやんしよと旅籠屋のぬいさんをもてなし上手だ……
……にこく

二にま〜笑ふてさあ〜ゆるりと休息なされよ。休息すんだ
ら初めて御出た。湯浴のあらまししらな坊さん。嬢さんらあ
にもたえなししませう

三抑々療治と申すもれとは。一定不變の時間か大事だ。たひく
浴るは衛生に毒たし長湯をあたとて効能はなぬぞや。初めの
七日は一と日の度数ぞ。三回位と定めておかんせ

四四つぼりゆるりと中乃七日は。一回ふやほを適度とするぞや。
下の一週は初めれ度数で。ゆる〜長ふよ心を静めて浴るら

肝腎

五御苦勞さんても拍子を揃へて。互に撓ます數の切目のすむま
ておふれと

六ろく〜出た汗拭とす蒲團に。巻れて轉ぶと大きな間違ひ療
治にならぬ

七七さん權兵衛さん老父さんに老媪さん。太郎さんに二郎さん
からだの強弱。病氣乃性質鱈髯ひねる西洋流義のた醫者さん
よもたづねて浴るが一番よいぞや

八八十余州は申に及ばず。雜居乃進歩は慎み第一。歐米諸國の白
哲人種と。朝晩共々入浴するにも。不行義過ては日本の疵だよ
九藥は段々數々あれ共僅か計りの日勤の入浴で。神變不思議の

功能のゐるのは。薬の内にも薬の外かだよ

藝題 盡し

やれ来たく遅蒔き大根で葉計りながららよいと藝題盡しと申上ます三つに四つは五つでも六つ七な八つは初め乃おとよ

一父は重郎兵衛母はお弓で其子がお鶴。年は九つ脊中においづる杖に笠だよ……

二人間世界は夢の泡雪ねたまが極楽明の鳥に浦里時次郎……

三美雪は駒澤慕ふて東に下るが。目くらで琴引其名は朝顔……

四信田の森ら童子がおるくうらみ葛の葉已れらのこがる新地の狐だ……

五御恩受けたる松王丸は忠と義心で我が子を身代り。女房喜こべ悴はお役だ……

六六代若君若葉の内司は。小金吾引連れ大和の國では下市村にて追手にかゝり。あわれや金吾は深手のわかれだ……

七奈良で旅籠屋丹羽の茶屋小屋。二三日四五日逗留致して。二十日余りに四拾と五兩を遣い果して二歩金残した。これを誰と

と尋ねて見たまは。大和飛脚は梅川忠兵衛……

八八重垣姫には武田の勝頼。回向しよとて繪にわうつせど反魂香たよ……

九九十九夜さはまだくおろかな。千夜通ふて姫と會ぬが深草少將た。小野の小町は穴ない御方だ……

忠臣藏盡し

ひきぬき手にとりさんばと申すに及ばずげだいと忠臣三
つに四つは五つでも六つ七な八つは初めのおとよ
初め乃れとよ 音に名高い鶴ヶ岡にて新田の兜と改め目きく
の役目は顔代御前て花の姿のやさしき師直見初めて玉章送
りた……………

はたも 二世とかわせしガ彌の上使よ小浪とりつき奥の一間
で本藏松切り主人をいさめた

ぬいさん 参勤交代當時日乃出の足利將軍もてなし役目が搦
谷判官師直雑言殿中の喧嘩であみ乗りものだよ
しまだ 四季に絶なく花は開けど開らぬ御門を入り来る上使

ハ石堂薬師寺兼て覺悟の判官様は無紋の上下兩肌ぬいでい
きせき駆け来る家老の大星無念の忠義を九寸五分をはあづ
かり置きます

権兵衛 御恩忘れし斧の定九郎猪子と見られて打ちとめられ
しは運の盡きだよ

毛谷村六助 無理も御金で御役に立たぬと突き戻されたで勘
平切腹疵口檢ため乗せ行く連判帳だよ

お七 長き月日を一文字屋にて身を持ちくづした大星様よ二
階でおかるはのべて寫して讀んだ文句で身受の相談妹喜べ
東の御共が叶ふたく
ねはさん 遙々古る郷放れて長の旅び路に山坂打越し小浪引

きつれ山科さしてと大星方に急いで行きます
 たくさん 奥の一間で祝言させうと聲は慥に石様たと白木
 のさんばに夫の二た腰れつと違ふた本藏の首だよそれを知
 りつゝ入る來る本藏は我れと我が手で力彌の鎗にて自害を
 なせしも浮世の義理た
 一百にさへた れさへたへさへた押へて打たる敵の首れば四
 十七士は墓に供へて本望とけたと焼香なされた今乃世迄も
 忠臣藏とて日本の鏡だ

岩井八景

始めのれとと 大阪邊から中國四國響き渡りし岩井の温泉
 機能は篤より承知の事ならこれららぼつゝ八景口説きた

宇臺黄波

春の眺免乃柳や櫻も重寶するのよ世界の例だよ派出て見事
 な宇臺の菜種は愛宕風よほやくゆられて舞ふて出て來る
 蝶々も花だ

蒲流争釣

散歩も入湯のひまよは妙たが蒲生川流れの釣竿行列。南の土
 手にも向ふれ岸にも。下にも上みにも釣手が澤山。たいくつ
 さましに遊んで御ろうじ。入日の上まで小鮎がはねます

島根納涼

島根大橋名代の納涼場欄干にもたれてかみしも眺めりや。明
 松ならへて川狩さわぎに。時間のたつ乃もまたくうらだよ

權平 長安晚鐘

後生願ふて代々榮へた。宇治の長者がまつりし長安景色をよ
ければ清水も湧き出る。時間をたがへずうも出す晚鐘も信心
こめたる庵主の務めだ

毛谷村六助 愛宕靈燈

六月祭りは數々あれども。岩井の愛宕は小高ひ所で。貳百余り
の寄進の提灯。夜の事として入湯の御客が。すゞみおてらに小
間下駄鳴らして。ゆきつもとりつ。なざるとうちも島根大橋
眺めが第一

お七 長峯翠月

長心峯とは岩井の東で。遠くなる尾の真空に。翠に。貳尺計りも

放れた所よ。月の出しほは玉子よ目鼻だ

おはさん 養老螢狩

八十過ぎても命を寶だ。孫の手を引き螢を狩り行く。保養の場
所とて其名も養老

お九さん 恩趾曉雪

曇り勝なる冬の空ても昔ととりでの恩志の城山。西の關所と
其名も残りし岩に日の出の薄雪化粧も。朝起き上手の胃病の
藥だ

岩井起點各地里程表

鳥取 (停車場建設中)	五里十三丁	那家	八里一丁	湯村	四里卅一丁
川原	八里廿一丁	若櫻	十二里廿三丁	村岡	九里卅一丁
用ヶ瀬	十里卅一丁	千種	二十里十三丁	福岡	十一里廿三丁
智頭	十三里廿四丁	三河	二十三里二十丁	關ノ宮	十三里二十丁
坂根	十七里十七丁	平福	二十六里十二丁	八鹿	十六里卅三丁
古町	二十里八丁			養父	十八里五丁
平福	廿三里十八丁			和田山	二十里五丁
佐用	二十五里			竹田	廿一里二十丁
久崎	廿七里廿二丁			新井	廿二里二十丁
上郡	三十里七丁			生野 (停車場アリ)	廿五里廿五丁
三ヶ月	廿七里廿二丁			矢名瀬	廿一里三丁
新宮	三十一里八丁			佐治	廿五里九丁
龍野	三十二里卅四丁			成松	廿七里卅四丁
正條 (停車場アリ)	三十四里十五丁			石生 (停車場アリ)	廿八里十三丁

11/36

明治三十五年九月八日印刷
同 年同月十五日發行

定價金四錢五厘

著作兼發行人

岩井温泉宿屋組合取締
宮 本 二 郎

鳥取縣岩美郡岩井村
大字岩井宿二十六番地

印刷者

吉 田 八 得

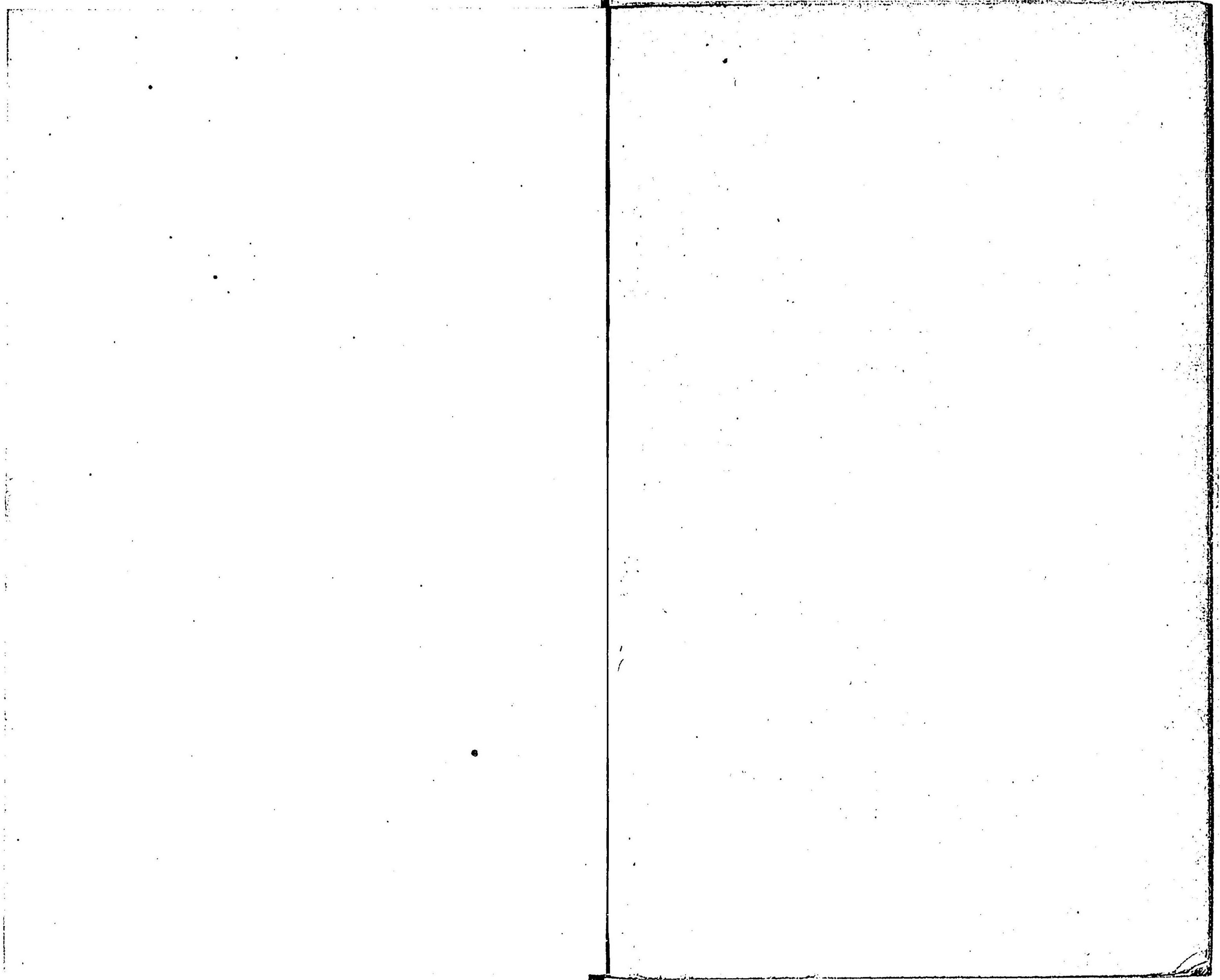
鳥取縣鳥取市東町
五十五番次一番地

發賣所

美 吉 堂

鳥取縣岩美郡岩井村
大字岩井宿六十二番地





82
574



025773-000-2

82-514

岩井温泉案内記

宮本 二郎 / 著

M35

ADC-3310

